経済学部・食マネジメント学部 1 回生対象

2024年度 ＜BKC＞全学副専攻
外国語コミュニケーションコース募集要項

1. 全学副専攻(BKC)とは

全学副専攻(BKC)(以下、副専攻)は、必修外国語の履修などでこれまでに培った外国語能力をベースに、より一層高い運用能力とその外国語学習を通じて幅広い教養を身につけることを目的として、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の各コミュニケーションコースを開設しています。コースごとに開講される副専攻科目から、必要な科目を選択して履修します。今回は、**次年度の春学期**から始まる初修外国語の各コミュニケーションコースの募集を行います。

2. 募集日程

<table>
<tr><th>内 容</th><th colspan="2">日 程</th><th colspan="2">詳細・備考</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="6">募集ガイダンス</td><td>概要</td><td>10 月 10 日(火)
12:20～12:50</td><td>事務局
ガイダンス</td><td>ラルカディア
R103</td><td rowspan="2">教室実施＆Web 実施
副専攻募集ページ(下記 QR コード)に URL 掲載</td></tr>
<tr><td rowspan="5">語種別ガイダンス</td><td rowspan="3">10 月 23 日(月)
12:20～12:50</td><td>中国語</td><td>ラルカディア
R101</td><td rowspan="4">教室実施＆Web 実施
(Web はスペイン語のみ)
副専攻募集ページ(下記 QR コード)に Zoom URL 掲載</td></tr>
<tr><td>スペイン語</td><td>アドセミナリオ
A204</td></tr>
<tr><td>朝鮮語</td><td>アドセミナリオ
A203</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10 月 26 日(木)
12:20～12:50</td><td>ドイツ語</td><td>ラルカディア
R403</td></tr>
<tr><td>フランス語</td><td>ラルカディア
R404</td></tr>
<tr><td>「応募フォーム」提出</td><td colspan="2">10月 16 日(月) 10:00
～
11月 3 日(金) 17:00〆
(期限厳守)</td><td colspan="3">応募できるのは1回生のみです。
https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR2023081010393371574685 9
※受付完了後、学内メールに受付完了メールが届きます。メールの受信をもって応募手続き完了となります。メールが届かない場合は言語教育センターまでお問い合わせ下さい。</td></tr>
<tr><td>受講許可者発表</td><td colspan="2">12月 6 日(水)
10:00</td><td colspan="3">manaba+R にてお知らせします</td></tr>
<tr><td>受講本登録</td><td colspan="2">2024年4月</td><td colspan="3">必ず各自で受講本登録を行ってください。</td></tr>
</table>

3. 募集･選考について

（1）各コースの募集定員

語種	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
定員	35名	35名	70名	35名	35名

（2）対象学部･回生

2023年度 **経済学部 1 回生 ・ 食マネジメント学部 1 回生**

（3）応募資格

今年度、必修外国語として当該言語（応募する言語）を履修していること。

※当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある（その言語圏での留学･滞在経験を含む）場合は、個別に応募の可否を判断します（語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります）。

応募締め切りの一週間前までに、下記の Web 申請フォームより、「（BKC）全学副専攻 応募可否相談シート」を提出して下さい。

＜「全学副専攻（BKC） 応募可否相談シート」Web 申請フォーム＞

【提出期間】10 月 23 日（月）10:00 ～ 10 月 27 日（金）17:00〆（期限厳守）

【URL】https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20230810104259609746859

（4）副専攻の履修は「申込→許可制」となり、1コースしか選択できません。

（5）副専攻を履修する場合、母語話者レベルのコースは選択できません（留学生含む）。

（6）**初修外国語既習者対応プログラム履修者は応募できません。**

（7）応募者が定員を超えた場合には、以下の方法で選考を行います。

選考方法	春学期の当該言語成績、GPA、志望理由書に基づき総合的に判定する。

4. 修得が必要な単位数とその取り扱い

○経済学部生

BKC副専攻は、「SP1」(8単位)および「SP2」(6単位)のパッケージで開講されており、卒業時までに各パッケージにおいて定められている最低必要単位数を修得すれば、それぞれ、「SP1修了」「SP2修了」と見なされ、卒業に必要な単位として認められます。BKC副専攻の修得単位は、18単位を上限に「教養科目」として算入されます。

「SP1」「SP2」どちらにおいても、やむを得ず途中で断念した場合、または所定の単位を下回って修得した場合には、卒業に必要な単位として算入されません。

なお、「SP1」と「SP2」の双方を修了した場合を「副専攻修了」とし、修了証を発行します。

配当年次	パッケージ(単位)	科目名	パッケージ修了に必要な**最低**修得単位数	卒業に必要な単位として認められる**最大**単位数
1	SP1(各2単位)	○○語で読み解く社会と文化A	8単位	10単位
		○○語で伝え理解する生活世界A		
		○○語で読み解く社会と文化B		
		○○語で伝え理解する生活世界B		
		Intensive Language Workshop(現地で学ぶ初修語セミナー)		
2	SP2(各2単位)	○○語で議論する社会事象A	6単位	8単位
		○○語で読み解く世界と経済A		
		○○語で議論する社会事象B		
		○○語で読み解く世界と経済B		

(注) ○○には、ドイツ・フランス・中国・スペイン・朝鮮が入ります。

○食マネジメント学部生

BKC副専攻は、「SP1」(8単位)および「SP2」(6単位)の科目群をパッケージとして開講されています。単位は1科目ごとに修得できますが、BKC副専攻は、独自の教育目標や到達目標を持ったコースであることを理解し、パッケージごとの系統的な履修を目指して授業に臨んで下さい。

BKC副専攻で修得した単位は、16単位を上限に「自由科目」として算入され、卒業に必要な単位数には含まれません。

配当年次	パッケージ(単位)	科目名
1	SP1(各2単位)	○○語で読み解く社会と文化A
		○○語で伝え理解する生活世界A
		○○語で読み解く社会と文化B
		○○語で伝え理解する生活世界B
2	SP2(各2単位)	○○語で議論する社会事象A
		○○語で読み解く世界と経済A
		○○語で議論する社会事象B
		○○語で読み解く世界と経済B

(注) ○○には、ドイツ・フランス・中国・スペイン・朝鮮が入ります。(イタリア語は開講していません。)

5. 履修上の注意点

（1）副専攻で履修・登録できるのは 1 コースのみです。またコースの途中での変更は一切認められません。
（2）副専攻科目の配当年次は、「1年次」 ＝ 2回生、「2年次」 ＝ 3回生と理解してください。
（3）副専攻の履修は、「SP1」から「SP2」への段階的履修を原則としますが、「SP1」未修了の場合でも「SP2」の登録は可能です。
（経済学部生）ただし、「SP2」の最低修得単位数を修得し終えたとしても、「SP1」の最低修得単位数が未修得のままであれば、「副専攻」修了の認定はできません。
（4）副専攻科目については、配当セメスターが指定されています（「7. 各コースの紹介」の科目編成参照）。基本的にはこの配当セメスターでの受講を推奨しますが、海外留学や専門科目の履修との関係で配当回生での履修ができない場合は、配当セメスター以降の受講可能なセメスターで受講してください。
（5）副専攻では、単位修得済の科目を履修することはできません。未履修や不合格の科目を履修してください。
（6）副専攻の再履修クラスはありません。単位を修得できなかった場合は、翌年度以降に同一科目または未履修の科目を受講してください。
（7）受講申込後にやむを得ず途中で副専攻の履修を辞退する場合は、「副専攻辞退願」を言語教育センター（セントラルアーク2F）に提出してください。
（8）**（経済学部生）**副専攻科目の登録単位数は、「年間受講登録制限単位数」に含まれます。
（食マネジメント学部生）副専攻科目の登録単位数は、「年間受講登録制限単位数」に含まれません。
（9）**（経済学部生）**
海外留学（協定・個別合意）で修得した単位を、帰国後の申請により副専攻の単位（12 単位上限）として読み替えることができます。申請は海外留学（協定・個別合意）からの帰国後直ちに経済学部事務室で行ってください。
※一度確定した単位を遡及して「読み替え申請」をすることはできません。
（10）**（経済学部生・当該言語の「Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」参加者）**
副専攻では、海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」で修得した単位を副専攻の単位（2単位）として認定することができます。ただし、1 回生時に参加した場合は副専攻科目として単位認定する対象とはなりません。また副専攻科目として単位認定ができるのは 1 回限りです。国際教育センターが実施する渡航前ガイダンス時に申請書が配布されますので、希望者は申請書を国際教育センターへ提出してください。

6. 受講登録について

（1）受講許可者発表は、12月6日（水）10：00に行ないますので、必ず確認のうえ、許可された学生は、各学期の「受講本登録期間」において、各自で manaba+R から CAMPUSWEB にログインし、受講登録（本登録）をしてください。
（2）副専攻科目の時間割は、2024年3月末に言語教育センターHPにアップされます。

7. 各コースの紹介

【 ドイツ語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

ドイツ語の学習を通じて、現代のドイツ語圏の文化や社会、生活世界や経済を理解すると同時に、そうした国々の人々との交流に必要な高度なドイツ語表現能力や理解力の養成を目的としています。併せて、多文化・多言語社会への視野を広め、理解を深めつつ、21世紀に生きる国際人の養成を目指します。目標をさらに具体的に設定すれば、1年次で「ドイツ語検定試験」4級から3級程度、2年次で3級から2級程度を目指した学習を行います。上記目的達成のために、現地で学ぶ初修語セミナー参加を大いに奨励します。また、副専攻受講者より、短期留学や長期留学の留学者が出ることを期待しています。

◆ 科目編成

科目名	単位数	パッケージ	配当年次(回生)	セメスター
ドイツ語で読み解く社会と文化A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
ドイツ語で伝え理解する生活世界A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
ドイツ語で読み解く社会と文化B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
ドイツ語で伝え理解する生活世界B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
ドイツ語で議論する社会事象A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
ドイツ語で読み解く世界と経済A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
ドイツ語で議論する社会事象B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
ドイツ語で読み解く世界と経済B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	2	SP1	単位認定	

◆ 科目について

◇ ドイツ語で読み解く社会と文化A

「ドイツ語・基礎」や「ドイツ語・展開」で身につけた能力を基礎にして、この授業では特にドイツ語を「聞く」・「読む」能力の向上を図ります。ドイツ語圏で起きた出来事の中から幾つかのトピックスを選び、テレビニュースなどを見ながら最近のドイツ語圏の文化や社会の状況を学んでいきます。また、ドイツの社会と文化をテーマにしたテキストを読んでいきます。具体的には、ドイツの新聞や雑誌、インターネットなどに掲載されたトレンドの話題を随時紹介していきます。

◇ ドイツ語で伝え理解する生活世界A

「ドイツ語・基礎」や「ドイツ語・展開」で身につけた能力を基礎にして、この授業では特にドイツ語を「話す」・「書く」能力の向上を目指します。現代ドイツ語圏の生活世界における諸問題を深く理解し、どのようなやり取りや文章表現を通じてそれを解決できるかを学びます。例えば、日常生活の様々な状況に対応できるような有用な言い回しを身につけます。以上のことに加えて、短い手紙やメッセージの書き方なども練習します。

◇ ドイツ語で読み解く社会と文化B

「ドイツ語で読み解く社会と文化A」で扱った内容からさらに進展します。現代のドイツ語圏の社会と文化を理解するために、より高いレベルのドイツ語のテキストや映像などを取り上げます。この科目を通じ、引き続き「聞く」・「読む」能力を高めていきます。また、現代のドイツ語圏の社会と文化への関心を深めつつ、

現代日本と比較する視点を養うことも、この授業の目的のひとつです。

◇ ドイツ語で伝え理解する生活世界B

この授業では「ドイツ語で伝え理解する生活世界A」で扱った内容を深めていきます。そして、ドイツ語を「話す」・「書く」能力のさらなる向上を目指します。ドイツ語圏の生活世界に身を置く場合に必要になる表現を身につけ、これまで習得した「話す」・「書く」能力を人々との繋がりや助け合いの場で発揮できるような練習をします。少々複雑な内容の文章をドイツ語で書いたり、話したりできるようになることを目指します。また、スピーチによって自分の考えなどを表現することにも挑戦します。

◇ ドイツ語で議論する社会事象A

この授業では「ドイツ語で伝え理解する生活世界A・B」で焦点を当てたドイツ語を「話す」・「書く」能力をさらに高めます。広く社会の様々な事象を取り上げ、その事象と生活との相関関係について、自分の見解や認識をなるべく具体的に表現できるようになることを目指します。ドイツ語で議論したり、スピーチしたりする練習のほか、作文を書けるように指導します。

◇ ドイツ語で読み解く世界と経済A

「ドイツ語で読み解く社会と文化A・B」で身につけたドイツ語を「聞く」・「読む」能力をさらに高めます。幅広く世界や経済といった領域で流通するテキストや映像などを取り上げます。その内容を理解し、そこで扱われている問題について熟考して、ドイツ語を母語とする人と、世界や経済に関する、あらゆるテーマについてディスカッションができるようなドイツ語圏社会と文化への深い理解を目指します。

◇ ドイツ語で議論する社会事象B

「ドイツ語で議論する社会事象A」で扱った内容をさらに深化させます。ドイツ語を「話す」・「書く」能力をより一層磨き、豊かな表現で様々な社会事象について自分の見解や認識を詳しく伝える能力の向上を図ります。異文化交流の場面では、微妙な表現のずれが深刻な誤解を招くケースがあり、それを避けるために日本語とドイツ語の表現方法の違いやドイツ語表現の微妙なニュアンスについても学びます。社会事象をめぐる議論や異文化交流において、より的確に表現できる語学力の養成を目指します。

◇ ドイツ語で読み解く世界と経済B

「ドイツ語で読み解く世界と経済A」で身につけた、「聞く」・「読む」語学力をさらに高めていきます。そのため、この授業で扱う世界と経済に関わるテキストや映像は、さらに高度なものとなります。ドイツ語圏のメディアを通して、世界と経済のあらゆる事象に視野を広げていきます。必然的に、この授業ではより専門的な語彙やより的確な表現も学んでいくことになります。さらに、学んだ事象についてドイツ語で自分の考えを発表したり討論したりします。この授業では、以上のように実践的な運用力を目指します。

【 フランス語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

基本的な目標は、国際化の時代において求められるフランス語能力を身につけ、将来の実務や生活に活かすことです。やや高度な言語素材も教材として扱い、国際人として求められるフランス語圏の社会や文化の理解にもつとめます。目標をさらに具体的に設定すれば、SP1で仏検3級程度、SP2で準2級程度の能力までの到達を目指します。

◆ 科目編成

科目名	単位数	パッケージ	配当年次(回生)	セメスター
フランス語で読み解く社会と文化A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
フランス語で伝え理解する生活世界A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
フランス語で読み解く社会と文化B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
フランス語で伝え理解する生活世界B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
フランス語で議論する社会事象A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
フランス語で読み解く世界と経済A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
フランス語で議論する社会事象B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
フランス語で読み解く世界と経済B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	2	SP1	単位認定	

◆ 科目について

◇ フランス語で読み解く社会と文化A

この科目が目指すのは、フランス語のテクストや映像等の多様なチャンネルを通じ、現代フランスの社会と文化を理解することです。この科目を通し、フランス語については、特に「聞く」「読む」という能力を開発します。また、専門分野については、フランス社会や文化を扱うニュースやネットのトピック、映画、テレビ番組などを、一次情報から直接理解し、客観的あるいは相対的に捉える力を養成します。副専攻に登録したばかりの2回生にとって、中級フランス語とフランス地域研究への入門となる科目です。

◇ フランス語で伝え理解する生活世界A

この科目が目指すのは、フランスの生活世界で、人・モノ・情報へと実際にどうやってアクセスするか、そしてそこで遭遇する問題にどうやって対峙するかを理解することです。この科目を通し、フランス語については、特に、「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力を開発します。専門分野については、現代フランスの生活世界でのさまざまな場面を通じ、知識を疑似体験的に身につけることで、総合的なコミュニケーション能力を涵養します。「フランス語で読み解く社会と文化A」とあわせ、副専攻に登録したばかりの2回生にとって、中級フランス語とフランス地域研究の入り口となる科目です。

◇ フランス語で読み解く社会と文化B

この科目は、「フランス語で読み解く社会と文化A」を受け、「A」より少々高度な内容を扱うフランス語の多様なチャンネル(テクスト、ラジオ、映像等)を通し、フランス語の能力をさらに高めながら、現代フランスの社会と文化をさらに深く理解することを目指します。「A」に引き続き、フランス語の「理解する(聞く・読む)」という能力にフォーカスを当て、それを伸長させると同時に、現代のフランス社会や文化への関心とそれに対する理解力も増強させるので、フランスの社会や文化の動向やその意味を正確に捉えること、また、それらを現代日本の社会や文化の問題の解決に応用することができるようになります。

◇ フランス語で伝え理解する生活世界B

この科目は、「フランス語で伝え理解する生活世界A」を受け、フランスの生活世界の様々な場面で遭遇する少々困難な問題を、「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力を用い、フランスで生きる人々と繋がり助け合いながら解決する方法を身につけることを目指します。この科目を通じ、生活者としてフランスに受容されるために、少々複雑なことや、まとまったことをフランス語で書いたり話したりといった「表現」がどれほど重要で意義を持つかが体感的に理解できるようになります。

◇ フランス語で議論する社会事象A

この科目の目的は、「フランス語で伝え理解する生活世界A・B」で開発した「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力を、フランス社会の様々な事象に対して用いることで、社会事象と「表現」との関わりを、実践を交えて体感的に理解することにあります。この科目を通じ、現代フランス社会の多様な事象が、どのような「表現」により捉えられ生活世界に入ってくるか、また、どのような「表現」を用いることで、生活者が具体的な一つ一つの社会的事象と関わり、影響を及ぼし合うのかを理解できるようになります。また、学んだ「表現」を用いることで、他者と助け合いながら、困難な社会事象に対する対策を導き出すこともできるようになります。

◇ フランス語で読み解く世界と経済A

この科目の目的は、学習の対象を「世界」や「経済」のような領域まで拡げ、やや抽象的な内容のテクストや映像を扱うことで、「フランス語で伝え理解する生活世界A・B」で開発した「理解する（聞く・読む）」という能力をさらに伸長させることです。このように、単にフランスだけに留まらず、他のフランス語圏やフランスと他の国とのさまざまな関係などに関心を払い、その内容を理解し、そこで扱われている問題について深い洞察をすることで、この科目を通じ、フランス語の高度な理解はもちろんのこと、コスモポリタンとしての自覚をもちながら他の国の人々と上手く協働する方法も身につけることができます。

◇ フランス語で議論する社会事象B

この科目の目的は、「フランス語で議論する社会事象A」で扱った内容を発展させ、フランスで生活する皆さんが複雑な社会事象にどのようにして遭遇するのか、また、それを解決するのに、「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力をどのように有効に機能させるのかを、実践を通じて理解することにあります。この科目は実践的学習の総仕上げでもあります。この科目を通じ、皆さんは、フランスのさまざまな社会事象が、多様な場面で生活者の日常と繋がる可能性があること、また、そのとき、繊細な表現で社会事象を捉え、言葉を発するのがいかに重要であるかを実践的に学ぶことになります。そして、その実践を通して、さまざまな生き抜くための表現を身体的な知識として獲得することができるようになります。

◇ フランス語で読み解く世界と経済B

この科目は、「理解する（聞く・読む）」に関わるフランス語とフランス地域研究の総仕上げとなる科目です。「フランス語で読み解く世界と経済A」までで扱った内容を総合し、地球レベルで流通するさまざまなフランス関連のテクストや映像を深く理解し、自ら考察し、その考えを世界へと投げ返す可能性までを追求します。フランスに留まらず、世界中の関係や経済まで関心を拡げ、そこで問題となっていることについて、深く理解し、真剣に考えること、さらにその考えを世界へと発信するのを意識することが到達点となります。この科目を通じ、フランス語の高度な理解のみならず、コスモポリタンとしての高い意識とリーダーシップ、及び異文化の人々と上手に協働する技術を身につけられるようになります。

【 中国語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

中国語の実用的な会話、読解・翻訳、文章作成、リスニング、スピーチ練習などを通じて、国際社会で活躍できる中国語能力を養成するとともに、中国語圏の社会、文化、経済などに対する理解を深めます。

また、チームで協力して学習をすることで、学生同士の交流を深めます。

具体的な到達目標としては、SP1で中国語検定3級程度(HSK4 級程度)、SP2では2級程度(HSK5 級程度)の中国語能力を目指します。

◆ 科目編成

科目名	単位数	パッケージ	配当年次(回生)	セメスター
中国語で読み解く社会と文化A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
中国語で伝え理解する生活世界A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
中国語で読み解く社会と文化B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
中国語で伝え理解する生活世界B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
中国語で議論する社会事象A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
中国語で読み解く世界と経済A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
中国語で議論する社会事象B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
中国語で読み解く世界と経済B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	2	SP1	単位認定	

◆ 科目について

◇ 中国語で読み解く社会と文化A

中国語圏の社会や文化に関する簡単な文章の読解をします。読解を通じて、語彙力、読解力などを向上させ、また中国語圏の社会や文化への関心を高めます。授業を通じて、特に書面語の文章に慣れることが目標です。

◇ 中国語で伝え理解する生活世界A

日常会話の練習をしたり、日常生活で使う文章を作成し発表したりして、実践的な会話や作文の力を身に付けます。

◇ 中国語で読み解く社会と文化B

「中国語で読み解く社会と文化A」より高度な文章の読解をします。それを通じて、中国語の文章から情報を得る力を養い、中国語圏の社会や文化についての理解を深めます。

◇ 中国語で伝え理解する生活世界B

「中国語で伝え理解する生活世界A」より高度な会話、作文、スピーチ練習をします。作文・スピーチ練習では、身近な出来事などを紹介する文章を作成して、発表したりします。

◇ 中国語で議論する社会事象A

中国語圏の社会や文化などについて調べ、その内容を中国語で書いたり、発表したりする練習をします。それを通じて、社会的な事柄について話したり、作文したりすることができるようになることを目指します。

◇ 中国語で読み解く世界と経済A

中国語圏の社会、経済などを扱った文章の読解練習などをします。それらを通じて、中国語圏で起きている事柄について情報を得て、その意味を考えていきます。

◇ 中国語で議論する社会事象B
「中国語で議論する社会事象A」より高度な会話、作文、スピーチ練習をします。期末には、中国語を使ってプレゼンテーション大会を行う予定です。なお、授業では、中国語ネイティブの補助スタッフによる中国語の練習や発表のサポートがつく予定です。

◇ 中国語で読み解く世界と経済B
「中国語で読み解く世界と経済A」より高度な文章読解などを行い、中国語圏の社会、経済などに対する理解を更に深めます。

【 スペイン語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

スペイン語圏(スペイン、中南米諸国)の歴史、文化や現代社会についての専門的知識を身につけるとともに、国際社会で活躍できる高度なスペイン語運用能力を獲得することを目標とします。具体的には、スペイン教育・職業訓練省実施のDELE(Diplomas de Español como Lengua Extranjera)のB1～2合格、および日本スペイン協会実施のスペイン語技能検定3級合格を目指します。上記目標達成のために、現地で学ぶ初修語セミナー参加を大いに奨励します。また、副専攻受講者から、半年または1年間の留学者が出ることを期待しています。

◆ 科目編成

科目名	単位数	パッケージ	配当年次(回生)	セメスター
スペイン語で読み解く社会と文化A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
スペイン語で伝え理解する生活世界A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
スペイン語で読み解く社会と文化B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
スペイン語で伝え理解する生活世界B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
スペイン語で議論する社会事象A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
スペイン語で読み解く世界と経済A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
スペイン語で議論する社会事象B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
スペイン語で読み解く世界と経済B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	2	SP1	単位認定	

◆ 科目について

◇ スペイン語で読み解く社会と文化A

この科目では、現代のスペイン／ラテンアメリカの社会と文化を、スペイン語のテクストや映像等の多様な媒体を通じて理解することを旨とする。そのため、「スペイン語・基礎」「スペイン語・展開」で身につけた能力のうち、特に「理解する(聞く・読む)」という能力に力点を置くという方針を採る。本科目を通じ、スペイン語を「理解する(聞く・読む)」という能力が伸長すると同時に、現代のスペイン／ラテンアメリカ社会や文化を扱うニュースやトピックに常に感受性が働くようになり、スペイン／ラテンアメリカ社会や文化を一次情報から捉え、自分自身で深く理解し、さらに日本の社会や文化を相対的に捉え、再認識することができるようになる。

◇ スペイン語で伝え理解する生活世界A

この科目では、現代のスペイン／ラテンアメリカを、生活世界でのさまざまな場面を通じ、疑似体験的に理解することを旨とする。そのため、「スペイン語・基礎」「スペイン語・展開」で身につけた能力のうち、特に「話す(やりとり・表現)」「書く」という能力に力点を置く。現代スペイン／ラテンアメリカの生活世界の中での諸問題を深く理解し、どのようなやり取りや文章表現を通じてそれを解決するかを学ぶことで、本科目を通じ、スペイン語を「話す」「書く」という能力が伸長するのはもちろんのこと、その生活世界に身を置いたときでも、人・モノ・情報に自らアクセスし、問題を同定し、その対処法を案出することができるようになる。

◇ スペイン語で読み解く社会と文化B

この科目では、「スペイン語で読み解く社会と文化A」で扱った内容をさらに深化させ、現代のスペイン／ラテンアメリカの社会と文化を、さらに高度なスペイン語のテクストや映像等の多様な媒体を通じ、深く理解することを旨とする。この科目を通じ、引き続き「理解する(聞く・読む)」という能力にフォーカスを当て、それを伸長させると同時に、現代のスペイン／ラテンアメリカ社会や文化への旺盛な関心を涵養し、自

発的にスペイン／ラテンアメリカの社会や文化の動向やその意味を捉えると共に、それを現代日本の社会や文化の問題の解決に応用することができるようになる。

◇ スペイン語で伝え理解する生活世界B

この科目では、「スペイン語で伝え理解する生活世界A」で扱った内容をさらに深化させ、スペイン／ラテンアメリカの生活世界のヴィヴィッドな場面で遭遇する少々複雑な問題について、それを「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力を用いて、スペイン／ラテンアメリカの生活世界で生きる人々と繋がり助け合いながら解決する方法を身につけることを旨とする。この科目を通じ、スペイン／ラテンアメリカの生活世界の中で、生活者として受容されていく過程で、少々複雑なことをスペイン語で書いたり、まとまったスピーチをしたりといった「表現」がどれほど重要で、また、生活世界への同化の深度にどれほどの意味を持つかが体感的に理解できるようになる。

◇ スペイン語で議論する社会事象A

この科目では、「スペイン語で伝え理解する生活世界A・B」で主眼とした「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力の対象を、広く社会の様々な事象にまで拡張させ、社会事象と「表現」との関わりを、実践を交えて体感的に理解することを旨とする。この科目を通じ、現代スペイン／ラテンアメリカ社会の多様な事象が、どのような「表現」により捉えられ生活世界に入ってくるか、また、どのような「表現」を用いることで、生活者が具体的な一つ一つの社会的事象と関わり、影響を及ぼし合うのかを理解し、学んだ「表現」を用いて他者と助け合いながら、その対処法を案出することができるようになる。

◇ スペイン語で読み解く世界と経済A

この科目では、「スペイン語で読み解く社会と文化A・B」でフォーカスを当てた「理解する（聞く・読む）」という能力をさらに伸長させ、広く「世界」や「経済」といった高度で抽象的な領域で流通するテクストや映像などまでをもその対象とすることを旨とする。単にスペイン／ラテンアメリカに留まらず、それを超える抽象度の高い領域にまで関心を払い、その内容を理解し、そこで扱われている問題について深い洞察をすることで、この科目を通じ、スペイン語の高度な理解のみならず、コスモポリタンとしての自覚とリーダーシップ、及び他者との協働性をも涵養することができるようになる。

◇ スペイン語で議論する社会事象B

この科目では、「スペイン語で議論する社会事象A」で扱った内容をさらに深化させ、高度で抽象的な社会事象が、生活者の日常にどのような形で介入するのか、また、その介入に対し、「話す（やりとり・表現）」「書く」という能力がどう役立つのかを実践的に理解することを旨とする。この科目を通じ、抽象的なスペイン／ラテンアメリカの社会事象が、「表現」という繊細な手段を通じ、生活者の日常と繋がる可能性があること、また、そのために表現の感性を絶えず研ぎ澄ませ、繊細な表現で社会事象を捉えるのが重要であることを理解できるようになる。

◇ スペイン語で読み解く世界と経済B

この科目では、「スペイン語で読み解く世界と経済A」で扱った内容をさらに深化させ、「世界」や「経済」などの高度で抽象的な領域で流通するテクストや映像を深く理解し、自ら考察し、その考えを「世界」や「経済」の領域へと投げ返す可能性までを追求する。スペイン／ラテンアメリカに留まらず、それを超える抽象度の高い領域にまで関心の領野を拡げ、そこで問題となっていることについて、深い理解に基づいた深遠な洞察をすることで、この科目を通じ、スペイン語の高度な理解のみならず、コスモポリタンとしての高い意識とリーダーシップ、及び他者との協働性をさらに涵養することができるようになる。

【 朝鮮語コミュニケーションコース 】

◆ コースの位置づけ

1回生基礎・展開の授業で学んだ内容は入門/初級レベルで、KPOP や韓国ドラマをまるごと聞き取るためには、もう少しのエクサイズが必要です。ぜひ朝鮮語コミュニケーションコースを選択し、より実践的でハイレベルな「使える」言葉、たとえば韓国人留学生と会話やチャットを楽しんだり、韓国・朝鮮の新聞や雑誌、ネット情報にアクセスしてレポート作成に役立てられる力を身につけましょう。韓国ドラマや映画、K-POP なども題材に、中級から中上級レベルの「話す・聞く・読む・書く」力を楽しみながら着実に養成します。

◆ 科目編成

科目名	単位数	パッケージ	配当年次(回生)	セメスター
朝鮮語で読み解く社会と文化A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
朝鮮語で伝え理解する生活世界A	2	SP1	1年次 (2回生)	3
朝鮮語で読み解く社会と文化B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
朝鮮語で伝え理解する生活世界B	2	SP1	1年次 (2回生)	4
朝鮮語で議論する社会事象A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
朝鮮語で読み解く世界と経済A	2	SP2	2年次 (3回生)	5
朝鮮語で議論する社会事象B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
朝鮮語で読み解く世界と経済B	2	SP2	2年次 (3回生)	6
Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	2	SP1	単位認定	

◆ 科目について

◇ 朝鮮語で読み解く社会と文化A

やさしい朝鮮語の読み物や韓国ドラマの場面、K－POPの歌詞映像など映像をふくめた多様なコンテンツを使ってことばの学習を進めながら、朝鮮半島の社会と文化も学ぶ初中級レベルの科目。1回生時の「朝鮮語基礎・展開」で身につけた能力のうち、特に「聞く・読む」能力の向上に重点を置きます。コリアン社会を成り立たせている文化的なものの見方や情緒を読み解くことで、朝鮮半島に生きる人々への親近感とより深い理解力を養うことを目指します。

◇ 朝鮮語で伝え理解する生活世界A

韓国・朝鮮での日常にフォーカスしたテキストを使いながら、さまざまな生活の場面に対応できる朝鮮語力と、国境や民族の壁を超えてさまざまな人々とコミュニケートし共感できるしなやかな感性を養う初中級レベルのクラス。1回生時の「朝鮮語基礎・展開」で身につけた「話す・書く」能力の向上に力点を置き、異文化社会に向けた発信力と受信力の両方を鍛えていきます。

◇ 朝鮮語で読み解く社会と文化B

「朝鮮語で読み解く社会と文化A」に引き続き、多様なコンテンツを使いながら朝鮮語のリスニングとリーディングの力を向上させる学習を進める授業。同時に、朝鮮語の新聞・雑誌記事の読解やテレビニュースのリスニングを通じて、日本との歴史的関係など日本の報道だけでは見えにくい朝鮮半島の社会の成り立ちを興味深く探っていくことができます。

◇ 朝鮮語で伝え理解する生活世界B

「朝鮮語で伝え理解する生活世界A」に引き続き、あらゆる日常生活の事象に的確に適応できる朝鮮語のコミュニケート力、特にスピーキングとライティングを強化するクラス。日本とは似ているようで異なる点の多いコリアン社会の慣習や人間関係を前提としたコミュニケート力の訓練を通じて、異文化社会と文化をさらに深く細部まで理解できるようになることを目指します。

◇ 朝鮮語で議論する社会事象A

「朝鮮語で伝え理解する生活世界A・B」で養った朝鮮語のライティング・スピーキングによる発信力を土台に、朝鮮半島をめぐるさまざまな社会問題を取り上げながら、日本人の弱点ともいうべき「議論する力」の養成を目指す中上級クラス。学生の選択したテーマに関した意見を個人・グループで朝鮮語文章にまとめ、スピーチや質疑応答を行うなど朝鮮語を使った思考に挑戦します。

◇ 朝鮮語で読み解く世界と経済A

「朝鮮語で読み解く社会と文化A・B」で養った朝鮮語のリスニング・リーディング。朝鮮半島をめぐる国際問題や経済情勢を中心に時事的な話題について、韓国・朝鮮のテレビニュースや朝鮮語の新聞・雑誌記事ほかを題材に、自ら調べ、まとめ、朝鮮語で発表しディスカッションできる能力を目指します。発展するアジア経済、東アジアの国際情勢など、経済学に密接に関連する情報を原語で理解できるようになります。

◇ 朝鮮語で議論する社会事象B

「朝鮮語で議論する社会事象A」に引き続き、日本と朝鮮半島の文化的流行や歴史に対する異なった視点など、身近な問題から社会情勢にいたるまでの様々な話題を題材に抽象的レベルまでの発信力をきたえるクラス。問題を把握して各自の意見を簡単な朝鮮語レポートにまとめ、個人・グループによるプレゼンテーションで発信できるなど、職場でも使える上級レベルの内容を視野に入れます。

◇ 朝鮮語で読み解く世界と経済B

「朝鮮語で読み解く世界と経済A」に引き続き、朝鮮語を通じて朝鮮半島や東アジア全般の経済やビジネス、政治に関するやや専門性のある内容を理解することをめざすクラス。朝鮮語の経済記事や論文にも挑戦し、学部専門科目のレポートや卒業論文作成に役に立つコンテンツを正確に読み取り活用できるようになることを目指します。

【BKC外国語副専攻に関する窓口】

立命館大学　言語教育センター（BKC）

@セントラルアーク2階

月～金　10:00～17:00

（※土・日及び祝日（土・祝日に行われる授業日・補講日含む）は終日閉室しています。）

TEL　（077）561－3358

E-mail : gengobkc@st.ritsumei.ac.jp